

平成28年度学校評価自己評価表

福島県立福島南高等学校

学校経営運営ビジョン		自己点検（実施状況と評価）				アンケート集計結果			分析と課題
重点努力事項		4段階評価 4◎：８０％以上達成 ３○：６０％以上達成 ２△：４０％以上達成 １▼：２０％以上達成	評価点	平均	判定	４段階評価			
						生徒	保護者	教職員	
文 理 科 目 標	１ 難関大学、国公立大学等への合格者の増加 ・国公立大学等の合格者数の増加を目指します。 ・センター試験の受験を奨励するとともに、各種試験の受験指導に努めます。	・2/10現在合格者数(進路先決定):国公立大4,私大27,私短4,看医専7,専門5,公務員1,未定31 ・3年は課外への出席状況は概ね良好であった。センター受験対策として平常課外や冬季課外など直前演習を積極的に行った。 ・1年大学見学会は、大学進学への関心を高めたが、現実的な進路希望を考えさせたい。	3.0	3.0	○	3.0	3.1	2.8	・各学年で計画的に朝自習を実施し、授業に取り組む姿勢を作っていく。 ・センター試験を大学進学希望者は全員受験としたい。 ・進路指導部と連携した行事を引き続き実施し、個人の問題として進路について考えを深めさせる。
	２ 総合的、専門的な学習の深化 ・授業やサイエンスセミナー等を通して、文理の学問的な探究心を伸ばします。	・福島大学の教授による講演会は有意義であったが、課題研究(1年)に入ると担任が指導せざるを得ない現状であり、指導が十分に行うことができなかった。 ・3年は進路実現に向け、応用力を高める発展的な学習に取り組んでいた。	3.0						・サイエンスセミナーでの課題研究のまとめや発表をＡＯ入試に対応できるようにする。そのためにも、教員側の支援体制づくりが必要である。
国 際 文 化 科 目 標	１ 語学力を生かした難関大学等への合格者の増加 ・難関大学等の合格者数の増加を目指します。 ・英検２級の合格者を増やし、仏検、GTEC、TOEIC等に積極的に挑戦させます。	・2/10現在合格者数(進路先決定):公立大1,私大16,公短1,私短3,看医専3,専門7,公務員1,未定7 ・第2回目までの英語検定では、１級２名、２級16名、準２級18名合格した。 ・仏語検定は４級３名、５級11名合格した(５級で英検２級に相当する大学がある)。	3.0	3.3	○	3.3	3.2	3.0	・今後、英語の外部検定試験が大学入試にますます使われるようになるので、さらなる検定取得を、また高得点を目指しての指導を充実させる。 ・外国人との交流の機会をできるだけ作り、コミュニケーションツールとしての外国語の学習に力を入れる。
	２ 国際理解教育や国際交流事業の充実 ・国際理解セミナーやKGGG姉妹校交流などの充実に努めます。	・ブリティッシュヒルズ研修やKGGG姉妹校交流、東南アジア青年の船参加者との交流等を通し、外国についての理解を深め、視野を広げることができた。 ・国際理解セミナーは、女子教育についての発展途上国の現状を理解し、関心を高めた。	3.5						・研修、交流など事前事後研修を充実させ、より実りあるものにする。
情 報 会 計 科 目 標	１ 高い課題意識と資格取得を生かした就職、進学の合格者の増加 ・高度な専門的資格を取得させ、就職、公務員、国公立大学に合格させます。 ・商業関係の各種競技大会へ積極的に参加させ全国大会への出場を果たします。	・2/10現在合格者数(進路先決定): 国立大3,私大22,公短1,私短3,看医専1,専門13,公務員5,就職25,未定6 ・簿記、情報処理検定では年間計画とおり養成講座を実施した。昨年度より合格者数が上昇している。 ・平日遅くまで、また休日も熱心に面接指導にあたるなど。生徒の進路実現に努めた。	3.0	3.0	○	3.4	3.4	3.3	・日商簿記検定２級の出題区分の改定に伴い難化が予想され、その対策を講じる必要がある。 ・高度資格取得に取り組むとともに、外部講師を効率よく活用して社会で活躍できる生徒を育成する。 ・生徒の進路実現のため、学科一丸となり、よりきめの細かい指導を図りたい。
	２ 地域産業を担う人材育成教育・事業の充実 ・地域づくりセミナー等を通して課題意識を高めます。	・地域づくりセミナーは、昨年度の反省を生かし、夏休み前に2回実施し、有意義な学習の機会を得ることができた。	3.0						・地域づくりセミナーは、経費を含め実施回数や方法を検討したい。 ・社会において主体的・合理的に活躍できる生徒を育てるため、次年度も様々な形でアクティブラーニングを取り入れる。
共 通 目 標	１ 生徒の生活習慣を確立させ、規範意識を高めます ・あいさつや制服の正しい着こなし、遅刻防止、全員清掃等の、生活習慣を確立させます。 ・いじめ等の非行防止を徹底します。	・昇降口指導や担任の指導の成果があり、遅刻者数が大幅に減少した。(後期中間616人) ・学校生活アンケート(いじめ)を年2回実施し、全体指導、学年指導を行った。(生徒指導部) ・全員清掃は良くなされている。ゴミの分別は一部の部活できていない。(厚生部)	3.2	3.1	○	3.4	3.5	3.2	・引き続き遅刻者数減少とさらなる生活習慣の改善を目指し、継続して遅刻指導等を行う。 ・ゴミの分別は、全職員の協力の下、モラルの向上に努める。 ・学校生活アンケートを年３回実施し、いじめ等の防止、早期発見に努める。
	２ 生徒の安全・防災意識と健康意識を高めます ・交通安全意識を高め、自転車事故等の絶無を目指します。 ・部活動の自主的な活動を充実させます。 ・教育相談や保健指導の充実に努め、生徒が自らの健康を保持増進する力を高めます。	・交通安全指導を年5回計10日間実施、下校指導6回実施、自転車事故件数は冬期間になり事故が重なった。(生徒指導部) ・虫歯の処置率が県管内で1位、指導の成果が出た。防災避難訓練を2回実施、2回目は速やかな避難ができた。(厚生部) ・1・2年にYG検査を実施、その結果を基に保健講話と運動させ、生徒自身による検査の結果を理解させる事ができた。(教育相談部)	3.3						・全校集会での指導や交通安全指導など年間を通して事故がなくなるように指導の強化を図る。 ・虫歯の治癒率のさらなる向上を目指して指導を継続していく。 ・迅速な情報収集と共有、チーム支援のシステム化を図る。(教育相談部)
	３ 生徒の自ら学ぶ態度を育成します ・家庭学習や朝自習に積極的に取り組ませ、自学自習の態度を養います。 ・総合的な学習の時間や課題研究での探究的な学習への支援を充実します。	・家庭学習を日常的に行う生徒、行わない生徒の2分化がおきている。予習に対する意識が低い。週末課題や朝自習に対してやらされ感を持つ一部の生徒がいる。(各学年) ・家庭学習時間調査を年4回行い、結果を進路だよりに活用した。12月の調査では、平日2時間以上の生徒が全体で22.6%となり、大幅に増加した。(3年41%、2年15%、1年12%)(教務部) ・図書館の利用者数が1日あたり12人程度減少し40.8人となった。(図書視聴覚部)	2.9			2.9	3.1	2.8	・各教科と連携し、予習復習が授業に生かせるような指導を行う。 ・進路実現に向け継続的に学習させ実力を高めさせる。
	４ 読書活動と図書館利用を推進します ・読書のPRの工夫、授業やHR等との連携を進めて、図書館利用や読書量の増加を図ります。	・一人あたりの年間貸出数が昨年度より0.28冊増加し、3.33冊(12月現在)となった。(図書視聴覚部) ・長期休業前の図書館利用、読書レポート、教材に関連する本の紹介などを行った。(国語科)	3.0			2.5	2.5	2.6	・図書の内容に関する情報提供についてさらなる工夫を検討する。
	５ 体験活動を通して豊かな情操や国際理解を養います ・芸術鑑賞会や海外修学旅行等の体験活動を通して、生徒の情操を高め、国際的な視野を広めます。	・演劇の講演を通して芸術的な感性を高め、人間同士のかかわり方について深く考える機会を設けることができた。(図書視聴覚部) ・有権者教育を行い、参議院選挙の投票率は9割となり、全国を上回った。(3学年) ・海外修学旅行の事前学習や現地高校生生徒との交流は有意義であった。「楽しかった」は9割(2学年)	4.0			3.2	3.3	3.3	・芸術鑑賞会を学校教育の一環であることを多くの教員に認識していただけるよう努力する。 ・次年度実施学年に実施計画、生徒活動の内容等について情報提供する。
	６ 各学科の特色を生かして創造性を養います ・各学科の特色ある教育活動を充実させます。 ・各学科の学習成果を共有させ視野を広げます。	・各学科の目標2参照 ・各学科の学習の成果の発表会を実施した。1年文理のサイエンスセミナー、国文の総学での課題研究、2年国文のKGGG、3年は情会の課題研究(秘書検定への取り組み)をそれぞれ発表した。	3.0			2.9	2.9	2.8	・各学科の目標2参照。
	７ 授業等の充実に努め、学力向上を図ります ・基礎基本を定着させ、応用力を高めます。 ・教員相互の授業参観、授業研究を充実し、教科指導力の向上に努めます。	・授業参観達成率は31.6%、前年度は超えた。参観により他の良いところを授業に生かすこと、参観された教員、生徒は緊張感が持てるとの感想もあった。(教務部)	2.0			2.9	3.2	3.2	・実施者が一部の教員に偏っており、目標達成にはまだまだ不十分である。指導力向上のための方策について他の視点からも検討したい。
	８ 進路希望を100%実現します ・進路実現の実力を養成する課外学習、模擬試験、検定試験にも積極的に取り組ませます。 ・キャリア教育を充実し、保護者との連携を深め、きめ細かい進学・就職指導を実施します。	・2/10現在合格者数(進路先決定): 国公立大8,私大65,公短2,私短10,看医専11,専門25,公務員7,就職25,未定44 ・「進路だより」を毎月発行、進路資料室の充実、全体での小論文、面接の個人指導を実施した。(進路指導部) ・二・三者面談を行い、進路意識の高揚、進路希望の把握を行った。(進路、各学年)	3.1			3.3	3.1	3.0	・生徒の学力分析とその情報共有を図り、授業や課外に活用できるようにする。 ・AO入試の増加や新テストを見据え、生徒の課題解決能力やコミュニケーション能力の向上をどのように進めるか。 ・低学年からどう進路意識の向上(進路希望の明確化に取り組むか。